

嘉手納F15 パネル落下

離陸時 約30分後 緊急着陸 基地内に

【嘉手納】米空軍は19日の午前9時半ごろ、米嘉手納基地所属のF15戦闘機が、離陸直前に機体前方のパネルが外れる事故があったと発表した。原因は調査中としている。

同基地所属のF15戦闘機は3月の風防ガラスなど5月、10月にも飛行訓練中に部品を落下させる事故を起こしている。

米空軍によると外れたパネルは操縦席の風防ガラス



事故機から降りるパイロット。コックピットの手前の○で囲んだ緑色の長方形部分からパネルが落下した＝19日午前9時50分ごろ、嘉手納基地（読者提供）

に衝突。パネルは同基地内で回収されており、「周辺地域に危険はない。事故は調査中で、今後ほかのF15も安全点検する」としている。パネルの大きさや重さは明らかになっていない。

目撃者によると、同機は午前9時すぎに同基地の南側滑走路を沖繩市向けに離陸。同基地周辺の上空を旋回し、9時半ごろに緊急車両約10台が待機する中、北谷町から南側滑走路に着陸

した。機体は外部点検を受けて午前11時すぎに格納庫へけん引されたという。

午後4時半ごろに米空軍から報告を受けた沖繩防衛局は、引き続き情報の提供と再発防止策を速やかに講じること、安全管理の徹底を申し入れている。

当山宏嘉手納町長は「今回は偶然離陸前だったが、飛行中に落ちる可能性も否定できない。落ちたこと自体が問題で、危険はないとはいえない」と語気を強めた。

同町議会の奥間常明基地対策特別委員長は「事故が相次ぐF15は間違いなく老朽化した欠陥機で、全機撤去すべきだ」と訴えた。

嘉手納基地では同日の午前9時48分ごろにも、別のF15戦闘機が緊急着陸した様子が確認されている。